

繊維の種類と特徴



繊維の種類

繊維には、大きく分類すると「天然繊維」と「化学繊維」の2つがあります。各々さらに分類することができ、次のように分類されます。

- 天然繊維

1. 植物繊維： コットン(綿)など
2. 動物繊維： ウールなど

- 化学繊維

1. 再生セルロース繊維： レーヨンなど
2. 半合成繊維： アセテートなど
3. 合成繊維： ナイロン、ポリエステルなど

種類	素材	吸水性・ 吸湿性	速乾性	肌触り	保温性	登山目線での評価
コットン (綿)	植物繊維	○	×	○	○	【×】吸水性が高く速乾性が悪いため、水分の蒸発に伴い体温が奪われるため、登山には適さない
メリノウール	動物繊維	◎	○	○	◎	【◎】吸湿性が高く、保温性も高く、速乾性もあり、防臭性もあるため、登山に適している
レーヨン	再生セル ロース繊維	◎	△	○	-	【×】シルクのような肌触りや光沢に似せて開発された素材であり、水に弱いため登山には適さない

種類	素材	吸水性・ 吸湿性	速乾性	肌触り	保温性	登山目線での評価
ナイロン	合成繊維	×	◎	—	—	【◎】 軽くて、耐摩耗性が高く、防風性にも優れており、登山のアウトター系では定番
ポリエステル	合成繊維	×	○	○	—	【◎】 速乾性に優れているため、登山では定番中の定番。インナー、ミッド、アウトター系のどこでも用いられている

種類	素材	吸水性・ 吸湿性	速乾性	肌触り	保温性	登山目線での評価
ポリウレタン	合成繊維	-	-	-	-	<p>【○】 ゴムの様に伸縮性が高い特徴があり、単独で使われることは殆どなく、ポリウレタンコーティング、ポリウレタンラミネート加工などで他の繊維と組み合わせて用いられる。登山ではアウター、ザックなどに使われているが、寿命が2～3年と短いのがネックとなる</p>
アクリル	合成繊維	×	-	◎	◎	<p>【○】 吸水性、保温性がないためインナーには向かないが、ウールに似ているためその代替えとしての用途になる</p>

この表から、「メリノウール」「ナイロン」「ポリエステル」「ポリウレタン」「アクリル」が登山に適した繊維であることが分かります。

インナーであれば、吸水性・吸湿性が高く、速乾性が高く、肌触りの良い「メリノウール」、または吸水性は良くないが「ナイロン」も向いていることが分かります。

もしくはコットン(綿)とナイロンの良いところ取りをした混紡なら、吸水性、速乾性、肌触りも良くインナーに向いていることが想定できます。

コットン(綿)100%をインナーに着ると夏は涼しそうな気がしますが、速乾性が悪く長時間体温が奪われるため向いていないことも分かります。

